試　案

［ 実践的な国家プロジェクトとなるシナリオ（試案）――実戦力ある民間戦略と、国政・行政（東京都）戦略の複合をテーマ ］

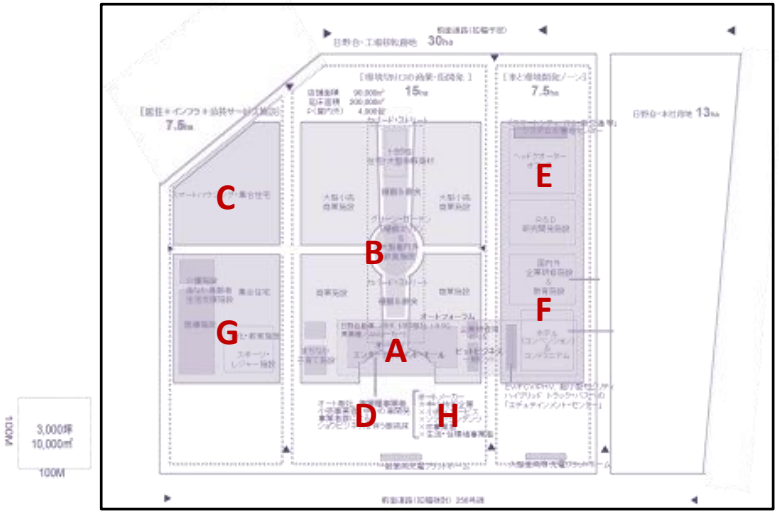
東北での「自動車新産業特区」構想 ⇒『 日本の産業構造転換に伴う製造業用地（東京都内）へ移行のアフターケア検討 』

（対象地： トヨタG／日野自動車本社工場跡地）

作製：鈴木浩二 総合プロデューサー
顧問：石原信雄 元官房副長官
Oct. 2014 **取扱注意**

［ アフターケアの方向性 ］

産業・事業転換に伴う
「新しいエネルギー、新しい技術革新（FCV他）による、新しい社会・街構築」
への考え方



A　FCV／PHV／EV等、省エネ車を柱、複数チャネル販売、日野自ートヨタG商材販売。興奮のあるショウビジネス要素を持った高効率販売床。

B　日本ブランド、国際ブランドからなる、製造業×サービス業のJ／V（ビジネスモデル）を持つ、首都圏の核となる商業核特性。

C　オートアプローチからの、［家庭／移動・交通／商業・業務／地域］の各エネルギー・マネジメントをビジネスとして民生化。→オリンピック事業へのビジネス導入へ。

D　日本が誇る環境と車技術、及び高度なサービスソフトからの ［ライフ／ビジネス／コミュニティ］・ディベロップメントとして街開発化。

E　日野自の創業理念からの新しい民生化商材開発（R&D）。国内外企業研修（R&D、サービス）と、国際標準化づくりを機能として持つ、ヘッドクオーター・エリア。

F　国内外の優秀な起業家、技術者を集約。海外（アセアン・中国）との双方向ビジネスをつくり出すことのできるダイナミズム拠点へ。

G　オート・アプローチからの、安心と保障のある生活拡大を、医療施設、介護・高齢者生活支援施設、子育て支援・保育施設、文化・教育施設　として配置。

H　省エネ車（FCV／PHV／EV等）の市場浸透を狙い、オリンピックへのビジネス導入。